

ミヒャエラ・ウーリッヒ&トーニ・マイアー
「sismik. 幼稚園・保育園における移民児童の言語
活動とことばへの関心」

恒川, 元行
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門 : 教授 : ドイツ語語彙論・辞書論

<https://doi.org/10.15017/13983>

出版情報 : 言語文化論究. 24, pp.109-122, 2009-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン :
権利関係 :

ミヒャエラ・ウーリッヒ&トーニ・マイアー
「sismik. 幼稚園・保育園における
移民児童の言語行動とことばへの関心」

恒川元行 訳

解題

以下は、ドイツ・バイエルン州立幼年期教育学研究所 (Staatsinstitut für Frühpädagogik IFP) において開発された、移民背景を持つ子どもたちのことばの発達状況を記録するための観察用紙「sismik. 幼稚園・保育園における移民児童の言語行動とことばへの関心 (sismik. Sprachverhalten und Interesse an Sprache bei Migrantenkindern in Kindertageseinrichtungen)」(2006年)を翻訳したものである。¹⁾

sismik は、移民背景を持つ就学前児童 (3歳半~就学) のドイツ語の力 (および、そもそも母語を含めた全人格的なことばの力) を、用意された設問に従って客観的に評価し、ことばの発達がどの段階にあるのかを判断するためのツールである。この作業により、子ども一人ひとりのことばの発達状況が的確に把握され、個々の発達支援が具体化されるだけでなく、幼稚園・保育園での教育内容の見直しや、教育スタッフ間の有機的な協働作業への契機が作り出されている。これは、「ことばの発達調査 (Sprachstandserhebung)」と呼ばれる調査テストとは別のものである。

ドイツは、1960年代からの長い移民受け入れの結果として、現在、2世、3世以降の世代が学校教育を受ける時代を迎えている。そのため、たとえばベルリン州では、ドイツ語を出身言語としない児童生徒の割合が、すでに50%を超えた地区も存在する。2002年に都心の4地区で行われた試行的調査の結果、「年齢相応のことばの力が新入生全員について期待できるわけではない」(州教育相)ことが明らかになったため、就学前のドイツ語能力調査²⁾が本格導入されている。この調査は、「基礎学校就学当初の2年間をひとつの単位とするフレキシブル制度」(第20条)、「就学年齢の6歳から5.5歳への引き下げ」(第42条)などの改革策とともに、ベルリン州改正学校法(2004年)³⁾の中に明文化されることになった(第55条)。

その後、2006年度のことばの発達調査「Deutsch Plus」の結果(表1)⁴⁾では、ことばの促進支援が必要と判断された子どもの割合は、出身言語がドイツ語である場合もそうでない場合も幼稚園への通園経験のない子どもたちの方がはるかに大きいこと(出身言語がドイツ語: 10.6%対28.6%、非ドイツ語: 53.2%対71.9%)、ことばの発達支援を必要とする子どもは出身言語がドイツ語ではなく、通園経験もない子どものグループに最も多い(71.9%)ことが明らかになっている。

(表1) 出身言語・通園経験の別による調査結果

出身言語	ドイツ語		ドイツ語以外	
	あり	なし	あり	なし
通園経験				
支援 要	1,807 (10.6)	144 (28.6)	3,779 (53.2)	338 (71.9)
支援 不要	15,260 (89.4)	359 (71.4)	3,324 (46.8)	132 (28.1)

以上はベルリン州の調査結果であるが、このような状況は、特に旧西側の連邦州を中心にドイツ全体にあてはまる。このため、ドイツでは就学前児童保育（0歳～就学、特に幼稚園教育）における「ことばの発達支援」の重要性が広く認識され、教育政策に反映されつつある。バイエルン州で *sismik* のような観察用紙が開発された背景には、このような状況がある。

他方、日本でも、1990年の「出入国管理及び難民認定法」の改正などにより、日系人を含む外国人の滞日が増加し、同伴される子どもも増加している。文部科学省の調査によれば、日本の公立小・中・高等学校等において「日本語指導が必要な児童生徒」の数は、平成19年度、25,411人（前年度比13.4%の伸び）である。17年度の20,692人（同5.2%）に比べると、伸び率は2.6倍に加速している。また、愛知県豊田市の資料によれば、同市の保育園に通園する外国人児童の割合は1歳児を除き増加しており、増加率も低年齢の方が大きい（表2参照）。⁵⁾

(表2) 豊田市の保育園における外国人児童の割合

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
平成17年 (%)	8.3	9.8	5.9	2.8	3.0	2.8
平成19年 (%)	14.8	9.4	9.8	4.0	3.2	3.0

1,500万人（人口比18.3%）⁶⁾ もの移民背景を持つ居住者を抱えるドイツと比べた場合、日本の移民問題は、一部の集住都市を除けばまだ大きな社会問題としては意識されていない（日本の外国人数：約215万人＝人口比1.69%）。⁷⁾ したがって、年少者日本語教育の研究と実践も緒に就いたばかりという状況にある。しかし、集住都市のひとつである愛知県豊田市の東保見保育園のように、外国籍児童が109人と、全体146人の74.7%を占めるような例も出てきている（2007年4月1日現在）。⁸⁾ そのため、遅かれ早かれ、日本でも就学前児童保育における「ことばの発達支援」の重要性が広く認識されてくるものと思われる。

注

1) この観察用紙には、「手引き」が付属している：Ulich M./T. Mayr: *sismik. Sprachverhalten und Interesse an Sprache bei Migrantenkindern in Kindertageseinrichtungen. Begleitheft zum Beobachtungsbogen sismik*. 2006. この文献の紹介は、別の機会に行いたい。

また、ドイツ語を母語とする子どもたちのためには、*sismik* とは別に、同じ著者による「*seldak. ドイツ語環境で生育する子どもたちのことばの発達とリテラシー (seldak. Sprachentwicklung und Literacy bei deutschsprachig aufwachsenden Kindern)*」(2006年)が用いられている。

- 2) 2002年～2003年は「Bärenstark ベルリン州の就学前および就学初期の子どもたちのためのドイツ語能力調査とことばの発達支援のための素材」、2004年からは「5歳児のためのドイツ語テスト DEUTSCH PLUS」が用いられている。前者「Bärenstark」については、九州大学言語文化研究院「言語文化論究」No.22 (2007)、p.113-124を参照。
- 3) Schulgesetz für das Land Berlin (ベルリン州学校法、2004年1月26日)
<http://www.berlin.de/imperia/md/content/sen-bildung/rechtsvorschriften/schulgesetz.pdf>
- 4) Detaillierergebnisse DEUTSCH PLUS 2006「詳細結果報告」より作成。
http://www.berlin.de/imperia/md/content/sen-bildung/schulqualitaet/lernausgangsuntersuchungen/detaillierergebnisse_deutsch_plus_2006.pdf
- 5) 愛知県豊田市役所子ども部保育課の資料より作成 (2008年3月入手)。
- 6) 「1500万人」は、雑誌「Deutschland」2008年10/11月号、p.48による。また、ドイツの総人口は8216.9万人 (2008年2月29日現在) である。
http://www.statistikportal.de/Statistik-Portal/de_zs01_bund.asp
- 7) 法務省入国管理局の統計によれば、日本の外国人登録者数は、2,152,973人 (2007年12月31日現在) である。
<http://www.moj.go.jp/PRESS/080601-1.pdf>
- 8) 愛知県豊田市役所子ども部保育課の資料による (2008年3月入手)。

注記

sismik の設問の多くは、用意された選択肢にチェックを入れるという方法で観察記録が付けられるが、観察者が手書きで記入する欄（「備考 Anmerkungen」）も設けられている（p.3～6およびp.10）。本稿では、この部分は省略した。

また、選択肢には①～⑥のような数字が入っている場合と、○印が付いているだけのものがある。数字がある場合、それは順番ではなく評価を表している。たとえば「子どもは沈黙している」の場合、選択肢「全くない」は肯定的な回答になるので⑥、逆に「ドイツ語の会話に積極的に参加する」の場合、同じ「全くない」は否定的な回答になるので①が与えられる。

しかし、「チェックを入れる際、数字ではなく、頻度（たとえば「時々」）を基準としてほしい。数字は、後の評価のために用意されている。」との注記があり、数字ではなく頻度記述に基づいて評価することが要請されている（p.3～6およびp.8）。この注記も、以下では省略した。

翻訳

(表紙)

観察用紙

子どもの名前
 生年月日 ○男の子 ○女の子
 子どもの家庭言語
 子どもの国籍

(p.2)

観察用紙の記入について (付属の説明書も参照)

移民児童：ある別な言語・文化圏からドイツにきた家族、たとえば「外国人」(パスポート上での)、帰還移住者、二国籍家族(たとえば、母親がドイツ、父親がイギリスの出身)、あるいはドイツ国籍を取得した移住者の子どもたち。特に、ドイツ語および家庭でのもう一つの別な言語によって成長している移民児童が対象である。

年齢グループ：およそ3歳半から就学までの子どもたち

「**ドイツ語**」に**重点**：この観察用紙はドイツ語を母語とする先生のために作られている。重点は、ドイツ語との関わり方である。家庭言語(「母語」)は、これもまた移民児童の言語発達にとって重要であるが、ドイツ語を母語とする先生には、たいていの場合、判断することができない。それにもかかわらず、この観察用紙には母語に関するいくつかの設問が、この領域を尊重することの契機として含まれている。

構成：この観察用紙は、4つのパートから構成されている：

- パート1：ことばに関わる多様な状況での言語行動
(お話の時間、役割遊び、絵本読みなど)
- パート2：(狭義での)言語能力
- パート3：子どもの家庭言語
- パート4：子どもの家庭

記入について：

- おもにグループリーダー、ないし子どもを最もよく知っている関係教育スタッフが記入する。
- 同僚の先生方の観察によって補足する。
- 多くの項目は、子どもをすでに何度も観察したのであれば、おそらくただちに評価することができる。この他、比較的長い観察期間が必要な設問もある。
- いくつか設問の評価のためには、場面を意識的に作り出すことが不可欠である(たとえば、新しい空想語を後について反復する場面、あるお話を再話する場面)。
- 子どもをある特定の状況(たとえば、絵本読み)において何度も観察してから、評価を行ってほしい。

- チェックを入れる際、数字ではなく、ことばによる段階づけ（たとえば「時々」、「たやすい」）を判断基準としてほしい。数字は、後の（場合によっては）追加的評価のために用意されたものである（付属説明書第6章「スケールを土台にした量的評価 — その子どもは他の子どもたちと比較してどの段階にあるか？」を参照）。

付属説明書：ここにある説明は要点だけである。付属説明書を読みたい。説明書には、利用と評価に関する具体的指示およびいくつかの発達促進のためのよりどころが書かれている。

子どもは本園に 年 月から通っている。

子どもは本園に毎日平均して

○およそ4時間まで ○5～6時間 ○7～8時間 ○8時間以上 通っている

○子どもは園を欠席することが比較的多い／長い

（病気が長い／よく病気をする、出身国へ一時帰国する など）

(p.3)

1 さまざまな状況での言語行動

A 朝食のテーブルで

- 1 子どもは沈黙している

⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 2 子どもはドイツ語の会話に注意深く耳を傾ける

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 子どもたちのドイツ語の質問や要求に応える

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 4 ドイツ語の会話に積極的に参加する

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 5 聞き手の子どもが知らないこと、その場にはないものについてドイツ語で分かるように話す（たとえば、家での出来事）

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

同じ家庭言語を話す子どもたちがいる場合：

- 6 ふつう同じ家庭言語の子どもたちの所に座る

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある
- 7 家庭言語での会話に注意深く耳を傾ける

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある
- 8 家庭言語での会話に積極的に参加する

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

B 役割遊び（ごっこ遊び）

- 1 子どもは役割遊びに参加している
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 2 ドイツ語で行われる役割遊びに積極的に参加する
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 家庭言語で行われる役割遊びに積極的に参加する
 ○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある
 このような状況は見られない → □

C 自由遊びの時間の遊び相手

- 1 子どもはひとりで遊ぶ
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 2 他の子どもたちに遊び相手として人気がある
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 ドイツ語の子どもたちと遊ぶ
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 4 同じ家庭言語を話す子どもたちと遊ぶ
 ○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある
 このような状況は見られない → □

(p.4)

D 関係教育スタッフとの個別の会話（ドイツ語）

- 1 子どもは私たちとの接触を避ける
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 2 私たちと話をする
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 とても小さな声で話す
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 4 私たちとドイツ語で話す
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 5 ドイツ語で話すが、かなり努力をしないと理解できない
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 6 私たちの質問に不正確に、あいまいに答える
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 7 私たちが話しかけても反応がない
 ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある
- 8 私たちが話すとき注意深く耳を傾ける
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 9 私たちに質問をする（ドイツ語で）
 ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 10 私たちが知らないこと、目の前にはないものについて、ドイツ語で分かるように話す（たとえ

ば、家での出来事)

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

E お話の時間／丸く並べた椅子

1 子どもは沈黙し、殻に閉じこもる

⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある

2 非常に小さな声で話す

⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある

3 注意深く耳を傾ける

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

4 直接質問を受けると適切な返事をする

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

5 自分から独自のアイデアを提案する

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

F 意思疎通／表現に困った場合* (ドイツ語)

*Reich (2000) より借用

1 子どもは殻に閉じこもる、黙っている

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

2 かつとなる

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

3 身振り手振りをういて言いたいことを伝えようとする

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

4 自分の家庭言語を話す二言語話者に助けを求める

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

このような人物はいない → □

5 代わりの語、言い換えを探す

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

6 自分の家庭言語を使う

○全くない ○非常にまれ ○まれ ○時々 ○よくある ○非常によくある

(p.5)

G 教育メニューとしての小グループでの絵本読み (ドイツ語)

1 子どもは注意深く耳を傾け、絵に注目する

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

2 絵本に描かれている個々の事物の名を言う (ドイツ語で)

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

3 (ドイツ語で) 絵と絵の関連づけ試みる、「語り手」になる

①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

4 絵と文章の違いがわかっている；たとえば、何が「そこに載っているのか」、何がそこに書かれているのかを尋ねる

- ①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

H 教育メニューとしての小グループでの読み聞かせ／物語り（ドイツ語）

- 1 子どもは、絵／身振り／事物による説明のない短い物語りに注意深く耳を傾ける
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 2 絵／身振り／具体物による説明がない短い物語りに関する会話に参加する
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 簡単なお話を暗記し、それを再話することができる（ドイツ語で）
①全くできない ②非常に努力が必要 ③多少の努力でできる ④たやすい

I 絵本との自立的な関わり（先生の働きかけによらない、子どもの自発性による関わり）

- 1 子どもは自分で絵本を探す
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 2 ゆっくりとページをめくり、個々の絵を眺める
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 本を読んでいるかのような振りをする
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 4 絵について自分自身と対話する（ドイツ語あるいは家庭言語）
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 5 絵に関して他の子どもたちと話をする（ドイツ語あるいは家庭言語）
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 6 自分に何か読み聞かせてほしいと頼む
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

(p.6)

J 文字への関心（「読むこと」および「書くこと」への関心）

- 1 子どもは書かれたものに関心を示す；たとえば、本、園内の掲示、標識など、それがどういう意味かを尋ねる
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 2 自発的に文字を描（えが）く
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 3 文字を書こうとする；たとえば、自分の名、「手紙」を書く
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

K 韻を踏んだ詩 — 空想語 — 異なった言語

- 1 子どもは空想語や魔法の呪文を楽しむ
①全くない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある

- 2 4音節の新しい空想語を覚え、空で言うことができる*

たとえば mó - na - lú - ra や gá - bu - dí - la

*Mottier (1981) による

- ①全くできない ②非常に努力が必要 ③多少の努力でできる ④たやすい
- 3 韻を踏んだ詩やことば遊びに積極的に参加する
①全くできない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
- 4 短いドイツ語の韻を踏んだ詩（たとえば4行詩）を覚え、空で言うことができる
例：Hexe Minka
Kater Pinka
Vogel Fu
raus bist du
①全くできない ②非常に努力が必要 ③多少の努力でできる ④たやすい
- 5 新しい外国語（ドイツ語、家庭言語以外）を楽しむ
例：トルコ人の子どもが英語やイタリア語で数を数える／歌を歌う
①全くできない ②非常にまれ ③まれ ④時々 ⑤よくある ⑥非常によくある
このような状況は、グループ内では見られない → □

.....

他の状況から見た観察
子どもの特別な関心対象

(p.7)

2 狭義の言語能力（ドイツ語）

L 行動依頼／要請の理解

- 1 子どもは、（脈絡／状況からではなく）ことばからしか理解できない、簡単な行動の指示を実行することができる。
例：先生は座って、Mario と机で工作をしている。上着掛けの方を見ずに、先生は Mario に自分の上着を取って来るように言う。
①全くできない ②非常に努力が必要 ③多少の努力でできる ④たやすい
- 2 子どもは、（脈絡／状況からではなく）ことばからしか理解できない、「複数の行程からなる」行動の指示を実行することができる。
例：先生は Maria に、カセットレコーダを隣室から持って来、次にカセットテープを引き出しから出し、両方を机の上に置くように依頼する。先生はその際、指を指したり、目を向けたらない。
①全くできない ②非常に努力が必要 ③多少の努力でできる ④たやすい

M 話し方、語彙

- 1 子どもはドイツ語で

- ①非常に不明確に話す ②少し不明確に話す ③明確に話す

2 詰まりながら、ためらいながらドイツ語で話す

- ⑥全くない ⑤非常にまれ ④まれ ③時々 ②よくある ①非常によくある

当てっこ遊びや探しもの遊びの際に事物の名前を言う／事物を描写する。たとえば、キムスゲームや「君には見えないものが、ぼくには見える」ゲームの場合

3 事物の名を言うことができる（たとえば、「リンゴ」「鉛筆」「はさみ」「自動車」など）

- ①全く言えない ②いくつか言える ③たいてい言える

4 事物を描写することができる（たとえば、リンゴは…赤い、…丸い、…食べることができるなど）

- ①全くできない ②描写がやや大まか ③描写がやや詳しい

語彙

5 子どものドイツ語の語彙は（同年齢のドイツ人の子どもたちと比較して）

- ①非常に限られている ②限られている ③十分である ④豊富である

(p.8)

N 文の構成・文法

このパートは、基本的に Christa Kieferle によって開発された。

以下の文の構成と文法に関するパートで扱われているのは、子どもがどの程度、すでにドイツ語に対する感覚を持っているか、またどの程度自ら進んで、すでに文や文の一部を構成するかである。問題となるのは、長く練習し、子どもが暗唱できるかもしれないような、ある特定の文の復唱や繰り返しではない。自発的なことばであることが、肝要である。

1 子どもは、何かを話して聞かせたい、何かをしたいというとき、たとえば「ジュース」、「学校」のような一語表現や、habdu (hastdu) 「持ってる？」のような決まり文句的表現を用いる。

- ①ほぼいつも ②時々 ③まれ／全くない

2 子どもは、何かを話して聞かせたい、何かをしたいというとき、語を順番に並べることによって文を構成する。たとえば、「トイレ、行く」、「…マリオ、庭」、「…ジュース、持つ」「…ぼく、おうち」など。

- ①ほぼいつも ②時々 ③まれ／全くない

3 子どもは副文を構成する。たとえば、weil、dass、wo、wenn など。

例：「…あの子はバカなので (weil)」；「…あの子は、ぼくが椅子を明け渡すように (dass) 要求している」

- ①全くない ②まれ ③時々 ④よくある

- 4 子どもは冠詞を用いる。たとえば、「これは一軒の家だ (ein Haus)」、「…ぼくは君にこの本を (das Buch) あげる」
- ①いいえ、冠詞はたいてい省略される
 ②冠詞はたいていまちがっている
 ③冠詞は時々まちがっている
 ④冠詞はたいてい正確である
- 5 子どもは動詞をどう使っているか、動詞は人称変化されているか？
 たとえば、「ぼくは遊ぶ… (ich spiele)」、「君は遊ぶ… (du spielst)」、「あの子たちが遊ぶ… (die spielen)」などと言おうとする場合。
- ①子どもはたいてい固定した形「spiel」「spiele」「spielen」だけを使う
 ②子どもは時々正しい形を用いる
 ③子どもはたいてい正しい形を用いる
- 6 主文の中で、動詞が正しい位置に置かれている。
 たとえば、「あの子はいつもそうする (der macht immer so)」、「…ぼくはのどが渴いた (ich habe Durst)」、「…トイレに行かなくては (ich muss (auf die) Toilette)」など。
- ①いつもまちがっている ②まれに正しい ③時々正しい ④正しいことが多い
 ⑤子どもは文を全く作らない
- 7 子どもは、話法の助動詞と本動詞を含む構文を用いる (たとえば、wollen、mögen、müssen、können、dürfen＋本動詞の文)。助動詞と本動詞の間には、ほかに一語ないし数語が置かれている。たとえば、「…ぼくはそれをしてもよいと言われている (ich darf das machen)」、「…ぼくはジュースもほしいな (ich will auch noch Saft haben)」。
- ①全くない ②まれ ③時々 ④よくある
- 8 子どもが dass、wenn、ob、damit、wo、der (die, das) で副文を作る場合、動詞の変化形 (定形) が文末に置かれている。たとえば、「…ぼくは、アヒルが泳ぐと思う (ich glaube, dass die Ente schwimmt)」、「…あの子は、まだ寝ている子だ (das ist ein Kind, wo noch schlafte)」
- ①全くない ②まれ ③時々 ④よくある ⑤子どもは文／副文を全く作らない

(p.9)

3 子どもの家庭言語

0 子どもの幼稚園・保育園における家庭言語との関わり方

(ドイツ語を母語とする先生による観察と判断)

- 1 子どもが家庭言語で話しているのを聞くと、次のような印象がある。
- 長めのパッセージを話す ○いくつかの語を話す ○個々の語を話す

- 2 子どもが肉親／知人に家庭言語で話しかけられた場合（たとえば、お出迎えの時）、私は次のような観察をした。

○その子はたいてい家庭言語で返事をする ○一部家庭言語、一部ドイツ語で返事をする
○たいていドイツ語で返事をする

- 3 家庭言語が出てくるグループ教育活動の際（たとえば、歌、多言語でのあいさつ）、私は、子どもがその家庭言語をどのように使用するかを観察した。

○喜んで使う／出来ることを誇示する ○一緒に活動する ○おずおずと参加する

○反応しない ○関わろうとしない

このような教育活動がない →

- 4 子どもはひとつの発話の中でドイツ語と家庭言語の両方を使う

○ない ○ある

「ある」の場合、

○おもに両方の言語ができる話し相手の場合に

○ドイツ語しか話さない話し相手の場合にも

- 5 子どもは、必要な状況では、一方の言語から他方へと切り替えることが出来る。

たとえば：子どもはちょうどイタリア人の子どもたちとイタリア語を話している。そこに、ドイツ人の子どもたちが加わる。そうすると、ことばを切り替え、ドイツ人の子どもたちとドイツ語を話す。

私の観察では、ことばの切り替えは

○たやすい ○努力すればできる ○全くできない

- 6 子どもは複数の言語の「仲介者」として活躍する。たとえば、ある子どもがドイツ語をまったく理解しない場合、その家庭言語で何の話かを説明する。あるいは、子どもたちが家庭言語で話している場合、私に、いま何が話されていたかを説明する。

○子どもは非常に喜んで「仲介」をする ○喜んでする ○それほど喜んではいない

○いやいやする／まったくくない

このような状況は見られない →

P 両親、および同じ家庭言語を母語とする別な大人の視点

- 1 両親の報告によれば、子どもは家庭言語で

○明確に話す ○不明確に話す

- 2 両親の報告によれば、子どもは家庭言語で意思疎通が

○十分にできる ○少しはできる ○全くできない

- 3 他の先生たちや同じ言語社会出身の大人は、子どもの家庭言語の発達状況について、次のように報告する：

(p.10)

4 子どもの家庭

Q 家庭内での生活状況／言語状況

- 1 子どもは誰と生活しているか？ 両親と 両親の一方と
- 2 子どもには、ドイツ語を比較的よく話すことのできる年長の兄弟があるか？
ない ある
- 3 子どもは仮宿舎／庇護請求者保護施設で生活している いいえ はい
- 4 父親／母親は自由時間にドイツ語家庭とのコンタクトがある
よくある 時々 まれ 全くない
- 5 母親はドイツに より滞在 出身国
- 6 父親はドイツに より滞在 出身国
- 7 母親は子どもと、どの言語を話すか？
- 8 父親は子どもと、どの言語を話すか？
- 9 両親のドイツ語知識（私の評価による）
母親 十分 中程度 わずか 全くない
父親 十分 中程度 わずか 全くない
- 10 母親の職業
フルタイム パートタイム 主婦 失業中
- 11 父親の職業
フルタイム パートタイム 失業中

R 家庭と幼稚園・保育園との関係

- 1 私は父親／母親に
よく会う 時々会う まれにしか会わない 会ったことがない
- 2 父親／母親は子どもに園での出来事を
よく尋ねる 時々尋ねる まれにしか尋ねない 全く尋ねない
- 3 父親／母親は園での催しに
よく来る 時々来る まれにしか来ない 全く来ない

- 4 父親／母親と教育上の問題／子どもについての話し合いがある／あった
よくある 時々ある まれにしかしない 全くない
- 5 父親／母親は心配／不安を抱えている
いいえ はい どのような心配／不安？

5 今後の措置

私は観察からどのような帰結を引き出し、今後どのような措置が必要か？（期日、措置、結果）
 日付 措置／結果

（裏表紙）

観察用紙の記入者

観察用紙の記入日（年、月）

幼稚園・保育園名

この観察用紙 *sismik* はバイエルン州立幼年期教育学研究所（IFP）において、プロジェクト「移民児童のことばの発達 — 的確な観察と発達促進」の一部として開発された。

このプロジェクトは、連邦内務省の助成を受けた。

Herder 出版社、Freiburg im Breisgau、2006年
 ISBN-13: 978-3-451-28270-6
 ISBN-10: 3-451-28270-4